

中学期からのステロイド使用後に休学を伴う全身症状を経て大学生活へ戻った青年期アトピーの経過 (22 歳 成人)

症例 ID：001-20-OY6 | 記録日：2016 年 11 月 1 日

1. 診断・治療前経過

幼少期からアトピーがあり、中学生頃からステロイド外用を続けました。塗ると一時的に創部が消えるものの、数日後にかゆみが戻る状態を繰り返しました。大学 2 年の冬に治療を開始し、ステロイドを中止しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	中学生頃から顔、首、上半身などへステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	中学生頃から大学 2 年頃までです。
中止時期	大学 2 年の冬です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
幼少期	発症	日常的に皮膚を掻く状態が続きました。
中学生頃～	外用継続	ステロイドで一時的に軽減しては再燃する状態を繰り返しました。
大学 2 年冬	治療開始	ステロイドを中止し、煎じ薬、漢方入浴、外用処置を開始しました。
治療初期約 6 か月	症状の強い時期	顔、首、上半身のただれと浸出液、強い痛みが続き、休学と退職が必要でした。
翌年夏頃	一時軽減	皮膚が整い、大学とアルバイトへ復帰しました。
その後 1～2 年	症状の波	冬季に再燃し、休学やアルバイトの長期休みを繰り返しました。
記録時点	経過後	創部はほとんどみられず、皮膚状態は大きく整いました。

4. ピーク時期

ピークは、治療開始後約 6 か月間に、顔、首、上半身のただれと浸出液、関節を動かしたり笑ったりするだけで強い痛みが出た時期です。

5. 困りごと

- 外出できず、大学を休学し、アルバイトを辞める必要がありました。
- 長期間、自宅で治療に専念しました。
- 冬季の再燃により、大学とアルバイトを再度休む時期がありました。

6. 経過のまとめ

症状の波により休学を繰り返しましたが、大学とアルバイトへ復帰できる時期が増えました。記録時点では創部はほとんどみられず、皮膚状態は大きく整っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。